

J-インディーズ・レーベル

本誌臨時増刊号「ジャズ読本2003」の「J-インディーズ最前線」でもご紹介したように、ここ数年ジャズ界でもインディーズ・レーベルの勢いはとどまることを知らず、次々と新たなレーベルや話題作が登場している。2003年を迎え、さらなる飛躍と発展を予感させるレーベルにスポットをあてながら、J-インディーズの最新状況をお伝えしよう。●座間裕子

どれもが魅力ある演奏とレーベル・カラーを伝えている

今年になってリリース・ラッシュがめざましいインディーズ・レーベルのこの2月にリリースされる新作中から、特に魅力のあるアルバムを紹介していきたい。

ローヴィング・スピリッツは、2つの新レーベルを2月にスタートした。その一つ「ティーン・タウン・レーベル」は、ジャコ・パストリアスに関するものなら何でも出していこうというジャコ・フリークのためのジャコ専門レーベルだ。第一弾としてリリースされたのは、マウリッツォ・ローリの「ジャコ・パストリアスに捧ぐ〜ムードスイングス〜」。ローリは、ジャコの末亡人イングリッドも絶賛するイタリアの鬼才ベーシストだ。同レーベルは、フロリダ在住のジャコの末亡人やジャコ本人をよく知っている関係者らとも頻りに情報交換をしながら、今後はジャコの末

発表曲やジャコの息子フェリックスをフィーチャーした作品など、ジャコ関連のトリビュートを続々とリリースする予定だ。

ローヴィング・スピリッツが発足したもう一つの新しいレーベル「アース・スピリッツ・レーベル」は、日本ではまだ知られていない世界各地の才能あふれるミュージシャンを発掘し、聴き応えのある作品を紹介していこうという本格派レーベル。今回発売されたオーストラリアのアリスター・スペンス・トリオとティム・スティーブンスの新譜は、どちらもジャズ・シーンに衝撃を与える注目の2枚になりそうだ。

ジャズバンクも注目すべき3作をリリースした。三好「3吉」功郎「サプライズ!」は、日本人の心にしみる潤いのあるメロディアスなギターの音色と、南米の陽光を思わせるからりと乾いた明るくはじけるビートが長群のグループを生み、そのフレッシュな感覚は新しいジャズ・フュー



NY在住のボーカリスト、歌姫ナプ子

ジョンとして期待される。

『レミニッセンス・オブ・ユー』は、ニューヨークを拠点に長く活躍してきたトランベッター、タク山崎のファースト・アルバム。ニューヨークのパワフルなサイドマンをバックに、クールで切れ味のいい演奏を展開する山崎のトランペットが注目だ。スロー・バラードでは、ゆったりと流れる大河のような大らかさの中に繊細なりリリズムが漂う。

ニューヨークを中心に活動するブラジリアン、ポップ、フォークとジャズを融合させた4人組のグループ、ディバッシュの新譜「ミュージック・イズ」は、アコースティックで人間の温もりを感じさせるサウンドの中に、都会的なクールなセンスも光る注目作だ。

ホワッツ・ニュー・2人のアーティストの20代から米軍クラブの共演を積み、黒いグとスイング感を備えたベテラン・テナー奏者「キューズ・グルーソウルフルないしは手リズム隊との共演方、NY在住のボー子」の「シンギング本人には珍しくレイとりを感じさせるスイング感が注目だ。

CTミュージック・新譜「ゼイ・セイ・フル」をリリース。ト



新たな境地を開いたチャリット

J-インディーズの実力を伝へ



ジャズ・バンクの最新アルバム「サプライズ!」のジャケット写真。三好功郎の「3吉」功郎の「サプライズ!」は、日本人の心にしみる潤いのあるメロディアスなギターの音色と、南米の陽光を思わせるからりと乾いた明るくはじけるビートが長群のグループを生み、そのフレッシュな感覚は新しいジャズ・フュー



「ゼイ・セイ・フル」のジャケット写真。CTミュージック・新譜「ゼイ・セイ・フル」をリリース。ト



イタリアの鬼才ベーシストマウリッツォ・ローリ

